

令和元年6月4日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02218

研究課題名(和文) 琉球における抒情歌謡の表現研究

研究課題名(英文) An expression study of lyrical songs in the Ryukyu

研究代表者

前城 淳子 (MAESHIRO, Junko)

琉球大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：90336355

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は琉歌だけでなく宮古のトーガニ、八重山のトゥバラマを含めた琉球列島の短詩形抒情歌謡の表現研究をすすめるための基盤づくりを目的とする。そのため各地の祭祀で演唱されている琉歌詩形の歌謡の収集・整理を行うとともに、宮古や八重山の短詩形抒情歌謡の収集・整理を行った。また、収集した資料の中から「花」が歌われたトゥバラマを抽出し、トゥバラマでは「花」が恋や若さを表わすために用いられていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで琉球の抒情歌謡の研究は、王府儀礼の中で歌われる琉歌に関するものや、歌集として残されている琉歌の表現研究、琉歌と和歌の比較研究などが中心であり、沖縄以外の宮古や八重山で歌われる抒情歌謡を視野に入れた研究はほとんどされてこなかった。本研究により、琉歌だけでなくトーガニやトゥバラマの表現研究をすすめるための基盤整備がなされたことで、琉球列島全体を見渡した抒情歌謡の研究が進められることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to lay a foundation for studying the expressions of lyrical poetry of the Ryukyus Archipelago's short poems, including the RYUKA in Okinawa, the TOGANI in Miyako, and TUBARAMA in Yaeyama. Therefore, while collecting and organizing lyrical poetry songs performed in various ceremonies, I collected and organized short poetry songs of Miyako and Yaeyama. It was revealed that "flower" was used to represent the love and youth of TUBARAMA.

研究分野：琉球文学

キーワード：琉歌 トゥバラマ トーガニ 琉歌詩形歌謡 抒情歌謡

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

琉歌は沖縄本島及び周辺離島を中心に歌い継がれ、琉歌集を通じて多くの作品が残されている。琉球王国時代に首都のあった首里の言葉によって形作られた琉歌は、地方の歌を取り込みながらまた地方へと伝播し、琉球古典音楽の歌詞として洗練され発展してきた。沖縄本島や周辺の離島だけでなく、宮古や八重山にも節組琉歌集が残されていることから、宮古や八重山でも琉歌が演唱されていたことが推測される。実際、与那国島のマチリや竹富島のタナドゥイなどでは琉歌詩形の歌謡が歌われていることが報告されている。

琉歌というジャンルの特徴を明らかにするためにも、沖縄本島だけでなく宮古や八重山まで範囲を広げて、琉歌がどのような機会に演唱されていたのか、またどのように受容されていたのかを明らかにする必要がある。

一方で、宮古諸島のトーガニや八重山諸島のトゥバラマなど、琉球列島には琉歌以外にも短詩型抒情歌謡が存在する。これらの短詩型歌謡に琉歌の影響があったのかどうか。それぞれの歌謡の表現の特徴を明らかにし比較検討することで、琉球列島の抒情歌謡の特徴が明らかになると思われた。

2. 研究の目的

本研究は琉歌を中心としながらも、宮古のトーガニや八重山のトゥバラマを含めた琉球列島の短詩型抒情歌謡の表現研究をすすめるための基盤づくりを目的とする。

そのためにまず、琉球列島で現在も行われている祭祀を観察し、その中で演唱されている歌謡がどのような性格を持つものなのかを明らかにする。そしてこれら祭祀の中で歌われる歌謡の中から、琉歌詩形の歌謡の収集を行い、歌唱者の性格や演唱方法、歌詞等、歌謡にまつわる情報の整理を行う。

また、これまでに刊行された歌謡集から短詩型抒情歌謡（琉歌、トーガニ、トゥバラマ、シヨカニ）の歌詞を収集・整理する。そして、収集された歌謡に使用されている語や修辞上の特徴について明らかにするための基盤づくりを行う。

3. 研究の方法

琉球列島の抒情歌謡の主題や表現の特徴を明らかにするために、以下の2つのデータベース作成を行う。

(1) 「琉歌データベース」の作成

宮古・八重山地域を含む地方で行われている祭祀の観察を行い、そこで演唱されている歌謡についての情報を収集し整理する。その中から琉歌詩形の歌謡を抽出し、採集地点、祭祀名、歌われる場面や場所、歌唱者、伴奏楽器の有無、節名、使用言語、歌詞等の項目ごとに情報を整理する。この収集・整理したデータを基に、歌謡の中で使用されている語彙の特徴や主題を明らかにするための分析を行う。

(2) 「南琉球抒情歌謡データベース」の作成

宮古や八重山の抒情歌謡が収録された文献の調査を行い、トーガニやトゥバラマ等の短詩型抒情歌謡を収集し整理する。その際、収録歌集名、歌詞、作者名、歌題、節名、歌集成立年、編纂者名等の項目ごとに情報を整理する。収集・整理した短詩型歌謡に使用されている主要な語句や表現技法を抽出し、比較検討を行う。

4. 研究成果

現在も各地で行われている祭の中でどのような歌が演唱されているかを見るために、平成27年度は久米島町十五夜祭、竹富町竹富の結願祭、竹富町黒島の結願祭を、平成28年度には竹富町祖納と干立の節祭、平成29年度には国頭村与那のウンジャミ、石垣市川平の結願祭、宮古島市来間のヤーマスブナカ、宮古島市上野のサティパロウ、粟国島のマースヤーを、平成30年度には伊是名村勢理客の豊年祭、今帰仁村湧川の豊年祭、宮古島市池間のミャークツツの実地調査を行った。

個々の祭を観察する中で、御嶽の神などへの祈願に関わる場面では楽器は用いられず、手拍子のみで長詩形歌謡が演唱されるが、一連の儀礼が終了した後は三線や太鼓などの伴奏楽器を伴った琉歌詩形の歌謡が歌われていることが分かった。

宮古島市来間のヤーマスブナカでは、各ブナカで一連の儀礼の後でマスムイが行われるが、その際に太鼓や三線の伴奏を伴って唐船ドーイや豊年音頭などの琉歌詩形の歌が歌われていた。川平の結願祭では、御嶽での祈願の後に奉納芸能が演じられたが、この中で座開きの歌や繁昌節、弥勒節、御前風、川平節、瓦屋節、真謝井節、桃里節、ふつばなどの琉歌詩形歌謡が演唱されていた。

これらの実地調査で得られた情報は、採集地点、祭祀名、歌われる場面や場所、歌唱者、伴奏楽器の有無、節名、使用言語、歌詞等の項目ごとに整理し「琉歌データベース」を作成した。

また、沖縄本島とその周辺離島で歌われる琉歌が、各地域の短詩形抒情歌謡に影響を与えているのかどうかを明らかにするために、宮古のトーガニ、八重山のトゥバラーマの歌詞の収集を行った。『南島歌謡大成 宮古篇』(1978年 角川書店)、『南島歌謡大成 八重山篇』(1979年 角川書店)、『日本民謡大観(奄美沖縄)八重山諸島篇』(1989年 日本放送出版協会)、『とぅばらーま歌集』(1986年 石垣市文化協会)から短詩形抒情歌謡を抜き出し、収録歌集名、歌詞、作者名、歌題、節名、歌集成立年、編纂者名等の項目ごとに整理し、「南琉球抒情歌謡データベース」を作成した。

今回収集したデータの中から、トゥバラーマで「花」がどのように描かれているのかについて検討を行った。トゥバラーマで歌われる「花」は、植物の花それ自体を賛美するもの、恋の事象と対比されたり、恋人や愛情、男女の関係の比喻として用いられたりしているもの、若さの比喻として用いられているもの、盛んなさまを表わすものに分ける事ができる。

トゥバラーマでは、植物の花自体を賛美する歌は一例しか見られず、琉歌で繰り返し歌われるのに比べて極端に少ない。また一方で、恋の事象と対比される「花」が多く歌われていた。「さちやるはなやゆがふどうまちうる ばぬやゆなかなぬさとうどう待ちうる(咲いた花は豊年を待っている。私は夜中のあなたを待っている)」(『南島歌謡大成』八重山篇 534頁)のトゥバラーマでは、「花」と「私」、「豊年」と「あなた」が対比され、どちらもおおきな喜びを与えるものとして描かれている。琉歌にもこのような対比構造を持つものはあるが、トゥバラーマのように頻繁に見られるものではない。むしろ対比構造を持たないものの方が多い。対比構造を比較的好く保持しているということも、トゥバラーマの特徴として取り上げられるだろう。この分析の結果は、『琉球アジア文化論集』第四号に「トゥバラーマに歌われた「花」について」と題して発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2件)

前城淳子、琉歌に歌われた「蝶」について、琉球アジア文化論集、査読無し、第五号、2019年、59-73頁

<http://hdl.handle.net/20.500.12000/44297>

前城淳子、トゥバラーマに歌われた 花 について、琉球アジア文化論集、査読無し、第四号、2018年、127-151頁

<http://hdl.handle.net/20.500.12000/42248>

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：仲間 恵子

ローマ字氏名：(NAKAMA, Keiko)

研究協力者氏名：石川 恵吉

ローマ字氏名：(ISHIKAWA, Shigeyoshi)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。